

高等職業大学日本語言語能力訓練の教材開発について

張 冬梅

九州共立大学共通教育センター

A Development of Practical Training Material for Japanese Majors' Language Competency in Vocational Colleges

Dongmei ZHANG

Abstract

Comprehensive Japanese is a core major course which plays an important role in Japanese teaching. As a co-curricular activity of Japanese teaching, practical training for Japanese competence is closely linked to the outline of the assessment for the national vocational skills training, in line with China's training objective for qualified vocational college students. It is designed according to the teaching plan of Shanghai Industry & Commerce Foreign Languages College and is a key practical section which combines practical teaching and theoretical teaching closely. It is of great value in application to probe into the content of employment-oriented practical training and the development of practical teaching material suitable for application-oriented talents in Japanese in vocational colleges. As an important part of the system of practical training course in vocational colleges, the content of the material is intended not only to embody the educational ideas, educational policies and teaching model for vocational colleges in the whole process of developing application-oriented talents but also to be linked up to the teaching system and knowledge hierarchy in various phases, which lay a solid foundation for the construction of a good practical training course system

Keywords: Vocational college Japanese, Practical training material for language competence, Development

1. はじめに

中国の教育現場では、総合日本語は日本語教育においてとても重要な課程として位置付けられている。ずっと日本語教育の専門コースで、日本語専攻の学生の必修科目とされている。そして、中国の職業専門大学の人材育成指導要領において強調されていることのひとつとして「実践教育を通して、実践型と応用型の人材の育成」をあげることができる。それは各職業大学においては実践的な活動が学習指導要領の内容として各科目に位置づけられることとなった。筆者が勤めている上海工商外国語職業学院では、日本語の実践コースは、この指導要領にしたがって、総合日本語の補助課程として、実践教育の一環として、設置されたきわめて重要なコースだ。国家の職業技能訓練、考查要領とも結びついて、本大学の高等職業教育の専門学習計画にしたがって、実践教育と理論教育とを密接に結合させるもので、「単位制」を実行する教育考查制度の必修科目とされている。

実践的な言語能力の訓練活動を通して学習指

導をすることの狙いとしては次のようなことが挙げられる。基礎的な言語知識・技能を確実に身につけること、言語の表現力とコミュニケーション能力を育てること、楽しさや意義を実感し学習意欲を高めることなどがある。これらの目標は、これまでもずっと高等職業大学の言語指導の目標とされてきたことであるが、中国国内の教育現場から、日本語においては、これらの力が十分には育っていないことが考えられる。実践的な言語能力の訓練活動を意図した指導が十分に行われてきたとはいえないのが現状であった。実践的な活動は理工科系においては行われるのがあまり難しくないが、言語においては、特に会社実習とか、いろいろ難しい問題点があると思う。そこで、日本語の実践的な活動がどのようにしてより一層充実できるのかを考え続けてきた。

本学の日本語学部の教師たちは、大学が創立してから、日本語実践教育の内容やモードについて模索し続けてきた。言語スキルの基礎知識訓練から就職前の職場実習訓練まで、十年以上の実践教育にわたって、さまざまな教育実習の指導書と多

量の実践教育の経験を蓄積したが、実践的、そして実用的なシステムがまだ形成されていない。このような現状から、高等職業大学応用型の日本語人材の実践教育に相応しい教材、日本語の実践的な教育を促す教材を開発することや指導法について研究し就職を目標とした研修コースを設計することや、その成果を広めることなどは、有意義なことで、大きな応用価値を持っていると考える。高等職業大学のカリキュラムシステムの重要な部分として、今度開発する教材の内容は職業教育の理念、教育方針、教育モードを応用型人材育成のすべての段階に網羅させるつもりだ。そして良い研修カリキュラムを構築するために、各段階の知識システムに結び付け、好ましい基盤を作るつもりだ。この課題は日本語学部教師全員が十分に検討し、真剣に論証した上、確定した言語能力訓練の教材開発研究計画である。b

2. 従来の研究基礎と課題を完成する条件

2.1 本課題の研究資料がそろっていて、設備も完備している

日本語学界が実践実習教育に参考になる多くの資料と経験を提供した。本学部も十年の実践教育の中で貴重な教育資源を蓄積した。例えば：

- (1) 日本の食文化研修指導書 馬敬、張冬梅ら
- (2) 日本茶道・花道研修指導書 朴金梅ら
- (3) 日本語会話研修指導書 靳君
- (4) 日本企業実務研修指導書 俞建中

2.2 本課題を完成する条件と保証

- (1) 本課題は各教研グループがそれぞれ担当し、日本語学部の教師全員が共同で編集する予定だ。何人もの教師が本校の創立当初から日本語学部の教鞭をとり、長い教育経験年数を持っている。日本に留学してきた教師が8人もおり、もう老・中・若年三代階段型人材の相互補充と協力ができており、チームワーク精神も形成した。各教師が豊富な教学経験を蓄積し、日本語研修コースの内容に熟知し、実践教育の能力が高く、教授法も柔軟で様々であり、学生の実践能力の育成を重視している。
- (2) 本課題グループのメンバー全員が総合日本語と聴解授業を担当したことがあり、少なくとも1年生から3年生まで、三年の教学循環の過程を経験した。高等職業大学の日本語専攻の学生の特徴に非常に詳しく、学生の能力によって、相応しい研修内容と模擬シーンが選択できる。

- (3) 学生に徐々に進歩させ、実践能力を向上させることができる。そして、課題グループの多くの教師は日本に長年生活、仕事しており、日本文化、日本企業文化、風俗民情に深く理解している。彼らによって開設された「日本企業実務」「日本経済」などの科目が実践性を持っている。本学部の既存の実践教育のリソースを十分に利用して、高等職業学校の学生の特徴、実際の教育効果と学生のフィードバックなどと結びつけて、この課題を円満に完成できると確信している。

以上のように、本課題グループのメンバー全員が日本語学部の既存リソースを合理的に利用して、社会ニーズを把握し、実践教育の各段階が各学期の総合日本語の教学内容に応じるように努めたい。教材の内容が社会、職場、企業などに範囲広くわたって、学生の「聞く・話す・読む・書く」能力を高める、学生の実践能力を育成するのを目標に、時間通りに本課題を完成するように努力する。

3. 教材の開発について

3.1 教材開発の目的

日本語学部は、2012 学年から総合日本語の補助コースとして、実践教育課程を育成計画に加入された。このコースは、総合日本語教育の実践教育の一環として、三段階に分けて、学年の順番に螺旋状のように、累加していく実践教育内容を設計するつもりだ。そして、このコースに相応な教材の開発が急務となっている。職業学校の学生の学習特徴を考慮しながら、言語の基本技能・異文化コミュニケーションとビジネススキル・総合応用技能という流れで、日常の教室活動と結合して、段階別、レベル別にデザインするつもりだ。教材の開発を通して、次のことを目的として課題を進めることにする。

- (1) 従来の研究資料を整理し、日本語教育の実践的な活動を促す教材開発を行い、その成果を蓄積すること。
- (2) 蓄積された授業実践を検討することによって、実践的な活動を促す授業がもつ条件について検討し、経験を積むこと。
- (3) 高等職業大学における日本語の能力訓練の研究を通して、各学校段階における違いや共通点は何かについて明らかにして、よりよい日本語の授業のあり方について検討すること。
- (4) 各職業大学で行っている現職研修セミナーなどの機会を通

して、教員養成や現職教員研修に役立てること。

3.2 教材の内容

日本語言語能力訓練の教材の内容は、主に三年の学習段階にしたがって、編纂する予定だ。

一年生 日本語基礎知識の実践練習、言語基本スキルトレーニング

二年生 ビジネス日本語のシーン訓練、校内研修基地コア技能訓練

三年生 応用日本語総合訓練、校外基地総合研修とインターンシップ

以上のように、既存の実習訓練の資料とリソー

スを十分に利用し、教師の力を生かして、教材を作る予定だ。各段階の教育内容は、主に教室の日常の教育研修活動、「会話編」「文化編」「作文編」「コンテスト編」などの部分に分かれている。音声段階の基礎訓練から日常会話、ビジネスシーン、模擬面接、インターンシップまでのさまざまな訓練を通して、学生に総合的な言語能力訓練を提供する。日本語言語の基本的な技能訓練と実用性を持つ職業キャラクター訓練を同時に進めるという特徴を、教材に十分に反映される予定だ。教材の具体的な内容設定は次の表-1のとおりである。

表-1. 教材の具体的な内容設定

学期	具 体 的 な 内 容
第1学期	教室の主な日常訓練活動：1、音声の基礎訓練 2、小スピーチ（指定テーマ）
	会話編：1、生活場面会話（模倣、原作、自作）
	文化の編：日本文化祭（アニメ展、cosplay など）
	コンテストの編：1、単語の王様 2、日本語入力コンテスト
第2学期	教室の主な日常訓練活動：1、小スピーチ（自由テーマ） 2、日本語クイズ 3、簡単な日本語の歌を勉強する
	会話編：1、生活シーン（買い物、道を聞くなど）会話
	文化の編：1、日本料理を作る
	コンテストの編：1、日本語文章の朗読コンテスト
第3学期	教室の主な日常訓練活動：1、小スピーチ（指定テーマ） 2、日本語クイズ
	会話編：1、ビジネスシーン会話（外事接待マナーと模擬訓練）日本語 2 情景劇
	文化の編：1、日本の茶道 2、日本文化祭
	コンテストの編：1、日本語の文章を暗唱する 2 カラオケ大会：日本語の歌の試合
第4学期	教室の主な日常訓練活動：1、小スピーチ（指定テーマ）
	会話編：1、職業シーン（ガイドの解説、研修）会話、2、ビジネスシーン（ビジネス日本語会話の交渉とマナー訓練のシミュレーション）
	文化の編：1、日本の花道
	作文の編：1、日本語番組の感想文
	コンテストの編：1、日本語映画とアニメの吹き替えコンテスト 2、日本語スピーチコンテスト
第5学期 （10 週間授業 + 学生校外実 習）	教室の主な日常訓練活動：1、小スピーチ（指定テーマ） 2、
	会話編：1、面接現場模擬 2 職業シーン（日本語の口語会話ホテル研修）
	文化の編：1 日本企業を見学して、日本企業文化を知る。2、日本文化祭
	作文の編：応用文を書く（電子ビジネス用手紙）
	コンテストの編：1、日本語の翻訳の試合 2、応用文を書く試合
第6学期 （学生校外実 習）	教室の主な日常訓練活動：なし
	会話編：卒業論文の指導について、指導教師との五回交流
	文化の編：実習感想
	作文の編：卒業論文を書く（インターンシップの内容と結合する）
備考	1 すべてのコンテストの項目は賞品賞状を励ましとして、用意する。 2 各学期各教研グループが実際の教育事情により研修内容を選択できる。

就職と密接に結合させるということを目的とする、予定された実習訓練の教材内容は、高等職業大学応用型人材の教育実践のすべての段階に適用すべきで、大きな応用価値を持っていると考える。日本語人材の需要が反映できる一方、学生の就職の基本的なスキルも鍛えられるといえる。学生の就職率を高めるために、業界の日本語人材のニーズを満たすために、この教材は有力な保障を提供できるものに編集していきたい。高等職業学校カリキュラムシステムの重要な部分として、教材の内容は、高等職業教育理念、教育方針、教育モードを応用型人材の育成のすべての過程に貫きながら、各段階の教育知識システムと結びつけて、知識→スキル→知識を深化する→スキルをアップグレードという実習訓練の課程を構築するために良い基礎を築きたい。

4. まとめと今後の課題

経済のグローバル化の発展につれて、中国は政治、経済、文化など様々な分野で世界各国との交流がますます頻繁になっていくに相違ない。日本語人材の求めもますます大きくなって、シングルタイプの日本語人材はもう人材市場の要求に適應できないと言えよう。中国がこれから必要とするのは、高度な専門技術と、その技術力をいかに発揮するために必要かつ十分な程度の日本語能力を兼ね備えた人材である。日本語の学習が単純の言語交流から、多元化になっていくので、市場も日本語の高級複合型人材に対するニーズがますます高くなっていくと予想できよう。そこで、どのようにして、素質の良い、技能の高い総合的な人材が育成できるという問題は、各高等職業大学の生存と発展、学生が順調に就職できるのか、そして就職したら自分の仕事にうまく適應できるのか、順調に発展できるのか、などに深く関わっている。本学部にとっては、伝統的な教育理念を変えて実践活動を増やし、産学連携、工学との結合の道を開きながら、本学部の学生に相應しい実践研修を研究して、総合日本語の教育により良いサービスを提供するのが急務となっていると判断できる。

そして、システムの完備した言語訓練教材は、教師に実践教育の完備の教学指導を提供する一方、社会のニーズに適應できるように、学生の学習と就職の実践活動に系統的な指導も提供できると確信している。

これから開発するこの教材は、学生が本に載

せた知識を学んでから実際に役立てるのを提唱することを旨に、言語の表現力と異文化コミュニケーション能力をさらに高めて、職業ニーズに適應するのを目的とする予定だ。シミュレーションの日本生活、伝統文化及び日本企業現場を設計して、学生に日本の風土民情を理解し、日本語の知識を勉強し、日常の礼儀作法を身につけ、いろいろな方面から、日本及び日本文化を深く理解してもらおうとする。楽しい雰囲気の中で学び、覚え、楽しみながら学習する、日常の教育を推進する。音声の基礎訓練から、日常会話、ビジネスシーン、模擬面接、企業実習まで、学生に全面的に総合的な訓練を提供する。日本語の高等職業学校の学生として備えるべき専門素養、専門技能及び現場に臨機応変に処置する能力を育成する。

既存のリソースを十分に利用し、タスクベースの指導法を教材に反映させるつもりだ。学生を中心に、タスクの配分、解決及び評価を通して、学生の言語実践への意欲を高め、言語実践の基本素質と能力を育成して、職場に適應できる必須の総合的な能力を身につけさせて、本学の「実用型人材を育成する」という教育目的を実現する。学生が持続可能な発展能力を有する実用型人材になってもらいたい。すべての可能な方式と資源を利用して、学生の日本語に対する実践の積極性を十分に引き出して、全員が関与して、ところどころ悉く手を尽くして、研修活動の記録、全員が利益を得るように編集していきたい。総合日本語の補助になることができ、学生の特徴に適應する実践研修の教材を形成できるように努めたい。

今後の課題としては、高等職業大学の日本語科目においてより一層の教材開発を行っていくことが必要であると考え。そして、実践授業を行う中で、各職業大学段階における、大学生が行う実践的な言語活動の特徴、共通点、相違点を明らかにし、実践的な教育活動を促す授業のあり方について明らかにしていきたいと考える。

参考文献

- 1) 新世纪高职高专教材编审委员会, 职场日语表达实训教程, 大连理工大学出版社, 2009
- 2) 新世纪高职高专教材编审委员会, 商务日语综合实训, 大连理工大学出版社, 2010
- 3) 李福贵, 职场日语实训综合教程, 复旦大学出版社, 2012
- 4) 国際交流基金日本語国際センター, 児童・生徒のための日本語わいわい活動集, 2005
- 5) 岩崎美紀子, 未来を支える日本語力, 2007

(原稿受付 2013 年 1 月 11 日)